

## —現状技術における問題点—

### 1. アンカー体の限界塑性変位量と試験荷重について

アンカー体には限界塑性変位量があり，これを超える段階で一気に引抜けることが確認されている（瀬崎茂・浜野浩幹：岩盤を対象とした摩擦型アンカー体の支持機構と設計上の問題点，土木学会論文集,2011）．このことは，例えば施工時の品質保証試験等において試験最大荷重を“設計荷重の 1.2 倍”などとするのはアンカー体の劣化を助長するものである．したがって，これを改める必要があり，最大でも設計荷重までとすることが適当である．

### 2. アンカー体に地上での引張荷重がそのまま伝わっていないことについて

アンカー体には地上での引張力がそのまま伝わらないことがすでに確認されている．筆者らの研究ではテンドン（PC 鋼より線）が 1 本引きの場合はほとんど問題ないが，複数でかつ自由長が 15m を超えると，地上での荷重の 60～90% 程度しか伝わらないことが確認されている（瀬崎茂・浜野浩幹：限界塑性変位量を用いた既設グラウンドアンカー工の評価基準の提案，地すべり学会誌，2010.7）．

このことは，現状の品質保証試験やリフトオフ試験などによりアンカー体の品質や健全度を判定することができないことを示すものであり，早急な解決策を必要としている．